

八笑人三編追加

下

13
3094
8





卷之三

三

へ13
3094
8

花八笑人三編追加下卷

籠亭鯉犬著

何人の口もさきもみや兩國へ其の夕ぐさ来て見
る。入相の袴も花ぞ咲る。ついでに種々の見せの茶も
出。高人あげづらう。いふあつねどお振舞中
批犯葉湯も陰徳若の婦人耳といふ。七味
とあつらひの七八五齡湯の個名も替り。四

文の白玉もギヤマンの鉢よ。生粋客のよう
めくよ。一やもやろく。遠くく見せろ。多から
る。上晒の公太突。出。茶屋も。大花
火のピラハ娘とぞ。客もまねき。川風
上。巖中の小唄や。今と盛
の涼ど折と。七よけ。八笑人。船宿めく
る。笑をさ。彼の卒ハハ。女の形
さ。姿よあ。柳橋。虚無僧。下駄

八笑人三編追加下卷



何も人さまのうら行でさるし。あゝぬ教で
 物もふらふらとてさうまうら橋の袂よまの
 居のよ。卒ハ「エ、あやもつらわへんじ。ちん
 見ごとまのい。まごころん軍の親が分て歩ゆ
 友達の前へけいぶんぐらうらうら。お同張へ
 て早くけいへんま。卒ハ「ソリ。よくねとねた
 ま。おハ。見を居ても。卒ハ「イヤサ。よくね
 かむらの當つて世郎。おまうらね。お月めの教うよ

卒ハ「ソリ。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 母「うん。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 さんよ。言ひで。見せて貰う。ハ。おまうらね。
 いま。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 おまが連てけい。誰がまんといわのら。サア。
 次郎。えい。ハ。おまうらね。おまうらね。
 ね。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 居る。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 さん。おまうらね。おまうらね。おまうらね。
 コウ。おまうらね。おまうらね。おまうらね。

びく天の尾尾宿る一の繁の毛管糸のごんら

かすともるんととも名の舟のわくのわく

れんご早い夏あつては井ふが年あひ邪

アよるうららぬんるせん「るんご年あひ

邪アよるうららぬんるせん「るんご年あひ

あえと冬宿のがあつてあまはしんア「あまはしん

十人居てしうて「あまはしんはしん「あまはしん

こよらふとアあつてあまはしん「あまはしん

たあさわくはつても左次郎えんの物をあつて

ト金剛力の卒ハが猿首とあつてあまはしん「あまはしん

あつてあまはしん「あまはしん「あまはしん

卑くあつてあまはしん「あまはしん「あまはしん

行あつてあまはしん「あまはしん「あまはしん

子もあつてあまはしん「あまはしん「あまはしん

流ちあつてあまはしん「あまはしん「あまはしん

八十八ノ三行並か

二



第一 げんぐり （因） せんま 母 一人 母 さま 変て ん

る せく さま さま 左 次 郎 さま げんぐり さま から さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

せんま さま さま さま さま さま さま さま さま さま さま

かみし〜 Smallish〜 ん〜 ん〜 せよし生てあう〜 ひが

後くら。こ〜 やアめか〜 と極〜 あめ〜 極〜

達者で〜 へと少〜 くら〜 居あ〜 ま〜 あり〜 だ〜

南無あ〜 ら〜 くら〜

「サアコレ卒〜 糸〜 ち〜 ら〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜 ち〜

こ〜 ち〜 あ〜 わ〜 の〜 ヨウ。ヤア吞〜 せ〜 え〜 衣物〜 へ〜 マ〜 ち〜

ち〜 ら〜 て〜 あ〜 して〜 是〜 サ〜 早〜 く〜 耳〜 眼〜 せ〜 ら〜 ン〜 や〜 マ〜 あ〜 め〜 方〜 ア

つ〜 ら〜 卑〜 く〜 甚〜 だ〜 て〜 ち〜 ら〜 て〜 ち〜 ら〜 ね〜 の〜 ム〜 ト

「コレあ〜 ら〜 か〜 マ〜 マ〜 あ〜 む〜 が〜 の〜 ん〜 だ〜 して

「マ〜 あ〜 め〜 が〜 の〜 ら〜 吞〜 え〜

でも。この〜 が〜 極〜 へ〜 て〜 ら〜 ま〜 じ〜 が〜 極〜 へ〜 ん〜 だ〜 して〜 マ〜 マ〜

あ〜 ら〜 て〜 ん〜 ん〜 せ〜 ン〜 眼七「イヤサ。あ〜 ら〜 が〜 と〜 び〜 こん〜 だ〜

つ〜 ら〜 う〜 大〜 丈〜 あ〜 め〜 へ〜 ち〜 極〜 へ〜 へ〜 へ〜 も〜 ち〜 も〜 ち〜 も〜 ち〜 も〜

ま〜 ら〜 せ〜 ン〜 ト 母の〜 ち〜 ら〜 ち〜 ら〜 母の〜 ち〜 ら〜 母の〜 ち〜 ら〜 母の〜 ち〜 ら〜

あ〜 ら〜 そ〜 ひ〜 ま〜 と〜 し〜 しく〜 依〜 の〜 ち〜 ら〜 あ〜 ら〜 ち〜 ら〜 眼七吞〜 せ〜 西〜 人〜 まで〜 母の

あ〜 ら〜 そ〜 ひ〜 ま〜 と〜 し〜 しく〜 依〜 の〜 ち〜 ら〜 あ〜 ら〜 ち〜 ら〜 眼七吞〜 せ〜 西〜 人〜 まで〜 母の

つ〜 ら〜 卑〜 く〜 甚〜 だ〜 て〜 ち〜 ら〜 て〜 ち〜 ら〜 ね〜 の〜 ム〜 ト

居て母の川中へ入せ給宮ののまらひは母もあはれとて
いふはさう入せてあはれとていふはさう入せては母の御方の
あはれとていふはさう入せては母の御方の
あはれとていふはさう入せては母の御方の

ヤアイ「まぬけヤアイ」~~~~~
人々かねて用意の家根よよのま〜遊の人々〜
あはれとていふはさう入せては母の御方の

上は入るべし何れもさういふ人々よ。こんざうか
其申さう。入るべし何れもさういふ人々よ。こんざうか

夫もさういふ人々よ。こんざうか
そのあはれとていふはさう入せては母の御方の

飛入もせざらん同どまらひのまらひは母もあはれとて
合てんゆりよとて
だらう

「そのあはれとていふはさう入せては母の御方の
ちやうどいふはさう入せては母の御方の

やか〜いふはさう入せては母の御方の
白で物身の栗とていふはさう入せては母の御方の

冬瓜がさういふはさう入せては母の御方の
ちび入はさういふはさう入せては母の御方の

八十八

夏よツイ気がつらるんご 野言 去る〜ぬりねくとも

まじりくごろうヨ塗る所が難 難松 松のころ掃ら駄葉

子家の牛皮ごろう 頭武 汗どろの二一の鏡六九揚の

あ薩ともんごろう アバ くだの白兎とえんごをぬんが

落るうらむだのまたとりてら川童が天旱でも

志ねくまむびりが モ ちむごろうロアがわ

志てごろう橋番うろむてつめ入らむごろう早く

飛びぐりり上 左女 左橋サだる〜の何かしてト

間うきもまきし まき 間うきもまきし まき 間うきもまきし

どろり どろり どろり どろり どろり どろり

ヤイトどろり ヤイト ヤイトどろり ヤイト ヤイトどろり

早くかき〜せろト 早 早くかき〜せろト 早

ヤア〜ば女アきん〜 ヤア ヤア〜ば女アきん〜 ヤア

何ごろうコレ 何 何ごろうコレ 何 何ごろうコレ

何ごろうコレ 何 何ごろうコレ 何 何ごろうコレ



八
笑
人
三
維
道
力

上

さしあがりあまの月物のふねあしんくし集りてさる先庁
あまの月物 あしんくし 集りて さる先庁
 藤よけしとて本柳橋の横垣へあかしの月愛めて茶
藤よけし 本柳橋 横垣 あかしの月 愛めて 茶
 ろご愛まのせ猶く女抱さるあかしの月生気よるのさ
ろご 愛まのせ 猶く 女抱 さる あかしの月 生気 よるのさ
 と月て。廣く是れあかしの月女の禪とて天宮へかから
と月て 廣く 是れ あかしの月 女 の禪 とて 天宮 へかから
 をかけてまら茶湯狂言とてあかしの月とて女抱さる
を かけ て まら 茶湯 狂言 とて あかしの月 とて 女抱 さる
 中のあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
中の あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 のあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
の あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 のあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
の あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月

志てあかしの月 何サる簡まらるるあまの月
志 て あかしの月 何 サる 簡 まらるる あまの月
 まらあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
まら あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 死うとまらあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
死 う と まら あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 何サる簡まらるるあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
何 サる 簡 まらるる あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 そとまらあまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
そ と まら あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月
 あまの月とてあまの月とてあまの月とてあまの月
あまの月 とて あまの月 とて あまの月 とて あまの月

ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ



ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ
ノ人ノ三ノ世ノ人ノ

首くそまにまふ。あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 所が^まあやとけまじど。龍宮^{りゆうきゆう}の^ち遠が^{とほ}くまの。まの^まあつたふらひらふまふ。
 経^こ入まふ。あつたふらひらふまふ。今も^{いま}あつたふらひらふまふ。
 お後^{おのち}して^し持^もたへて^て連^{つら}ひ^ひつらうと。あつたふらひらふまふ。
 のてあま^のあつたふらひらふまふ。左^{ひだり}次^{つぎ}「^いヤモウ^まあつたふらひらふまふ。
 左^{ひだり}次^{つぎ}あつたふらひらふまふ。
 お世^よ結^{むす}「^いま^まあつたふらひらふまふ。^南あつたふらひらふまふ。
 か^いと^とあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 直^{ただ}あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。

次^{つぎ}郎^{らう}ま^まあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 る^るせ^せと^とあつたふらひらふまふ。左^{ひだり}次^{つぎ}「^いま^まあつたふらひらふまふ。
 形^{かたち}して^{して}は^は高^{たか}貴^きの^のあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 こ^こち^ちの^のあつたふらひらふまふ。高^{たか}「^いま^まあつたふらひらふまふ。
 そ^そあ^あして^{して}あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 禪^{ぜん}の^の三^{さん}つ^つ公^{こう}押^{おし}へ^へつ^つあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 ま^まあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。
 る^る簡^{かん}と^とあつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。あつたふらひらふまふ。

且このころサシく立ちぬ世へトさしくは腰をつくろうとありぬ。

卒八もあむじさしてあきだまのあきだまはあきだまのあつひあむ

まじりもとまじりしはたうたうはあきだまのあつひあむ

らむあきだまはあきだまのあつひあむ

商人あきだまはあきだまのあつひあむ

きんこの世話あきだまはあきだまのあつひあむ

頼んでくる世へあきだまはあきだまのあつひあむ

次郎

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

あきだまはあきだまのあつひあむ

所引賣

色白慈と梅のどくちり二葉の用ひるや、何種も荒花の机も
羽二重の清のこと死を清うとす方のとるべ。ゆはび。そはなで。後相
の次。志このおあしも清うく清のそりりくまそと法合。約記て報と
洗ひその玉瓶も成るるさるらる。白粉と付る指も氣もさるら
自然素色のおくうらららら指もされぬ。及平屋にさるら
用ひしとも目にさげて笑くる素法のあはれ。ひらり。出陣ひたされ
真の義人ととりあへるる。
為永春水精劑

髪油とくさ
後のかと
妙業
初みぎらり

このかまらうの髪と洗ひたの
申ひしよらうらとくさるら
さうのう有 代三十六文

書物并繪入讀本所

江戸京橋跡左門町東側中程
文永堂 大嶋屋傳右衛門

